

2013年10月18日 財務省税関研修所 平成25年度関税技術協力研修(実践)
「『図解思考』を用いた 国際コミュニケーション力の向上」

国際的な場において、相手に何かを伝えようとする際に図解を使ったコミュニケーションは有効であることを学んだ。それはある意味、世界共通言語であることが分かった。

日本人力を深化させる＝真のリーダーシップ
業務を鳥瞰的に見る事の大切さ
先生の教え子が中国で党エリートへのし上がっていく可能性を講義で学びました。

今後、外国の税関職員の方たちに、日本の税関職務を説明する機会があると思うが、図解で、正確で、印象に残る説明をしていきたいと思う。

「私の仕事」の図を描いて、何を目指すか、という点を曖昧にしたまま場当たりの行動し迷走してしまうことを、改めて実感した。今までですっきりしないことが多かったので、納得のいく図を描けるようになりたいと思います。

今までにない考え方、物の見方で大変参考になった。自分の立ち位置、部内の役割、関の役割、省の役割、外国との関係などを広く見ていくことの必要性を感じました。

図で説明できたら、海外の方へ説明するときには多少言葉が通じにくくても分かりやすいと思えました。

重なるの考え方は、あまり考えたことが無かった。他の人の図解と比べると、組織の視点が足りないと感じた。

自分が「今」やっていることしか見えてないか、分かりました。

図解は、文章を書くときの構想を練るのに有効そうだ。

おもしろかった。多いに役立つと思った。プレゼンの能力・経験値が不足していると自覚していたので、ちょうどよい時期に講義を受けることができました。

図解にすると明確になりよりはっきり表現できるというのが新たな発見でした。目的や周囲との関係を考えながら、仕事をすることの重要性を再確認しました。

たいへん役立ちました。

図を描くことを習慣づけたいと思います。

目からウロコだった。普段から図解してものを考えるクセをつけたいと思います。また、上からの(全体をみる)視点をもっている人はデキる(エラクなる)ことも参考になりました。この講義を受けることができてラッキーでした。今後の人生を大きく変えることになったと思います。全税関職員が受講できたらと、思いました。

「文章・箇条書は物事の関連性がつかみづらだけでなく、誤解を生む可能性がある。」この言葉が身にしみる講義でした。図解を通して、物事を整理し、理解し、人に伝え理解してもらうことが可能なのだと思うと、偉大な発明です。